

粕谷。美味しかった桑の実です。5月18日、八王子・宇津貫緑地の野鳥定期カウント中、桑の実を食べて一息いれたところ。一番左の黒く熟した実が食べごろで、甘くて美味しかったです。子供の頃、学校帰りの道草でこの実を夢中で食べたことが思い出されます。ムクドリの子が集団でやってきて食べている光景をよく目にします。

紅葉台



新聞

第245号

2026年

8月1日

発行人：関谷 孝

アニマルウェルフェアをもっと知ってほしい

生協の学習会(5/16)で日本の畜産の現状を知り、あまりの酷さに愕然としました。是非現状を知り、これからの食料問題を考えるきっかけにしたいと思います。講師は岡田千尋さん。アニマルライツ(動物も人間と同じように生きる権利)センターの理事。アニマルウェルフェア(動物の福祉)とも関係があります。まず、アニマルウェルフェアは、1965年イギリスが提唱しました。動物に5つの自由(飢えと渇き・不快・痛み・負傷・病気・恐怖・正常な行動)で動物が心身共に健康な状態を保てることを掲げていて、実際に取り組んでいます。

今回取り上げたのは、養鶏場で飼育されている鶏です。日本では主に**ウィンドレス(真っ暗で窓のない狭い鶏舎)**か**開放鶏舎(狭い鶏舎)**で飼われています。一生狭い檻の中で身動きもできず卵を産み続けます。そのため病気にかかりやすく、餌は抗生物質がたくさん入っています。羽は抜け落ち、足は曲がり様々な病気になっています。ダニをとるために時々殺虫剤が振りかけられます。400日から600日で屠殺場へ送られます。箱にぎゅうぎゅう詰めになれ3日間ほど待つ屠殺されます。意識があるままに。日本は諸外国に比べアニマルウェルフェアは、圧倒的に最底辺レベルなのです。

太陽の光を浴びられるのは
出荷される最後の日



ウィンドレス鶏舎
という地獄



注：世界はケージフリーに向かっています。スイス 100%、英国 71%、EU60%、アフリカ 39%、韓国 8.2%、日本 1.4%
注：飼育密度日本 50 から 56kg/m²。EU、韓国、タイなどは 33kg/m²。日本は倍近い密度。

AW(アニマルウェルフェア)基準で言うと日本はEU諸国や先進国、アフリカ、韓国よりはるかに後れをとっています。世界はケージフリーに向かっています。平飼いでも1羽の占める面積が狭い。要するに密度が狭い中、餌も水も飲めず、動けない状態です。先天性異常が増え、夏場の猛暑で1日何百羽も死んでいます。病気が蔓延しないわけがないです。日本の農林省は、各国が決めると答弁し、後ろ向きです。しかし、**私たち消費者がそのことに気が付いて企業に働きかければ企業も無視はできず大手の企業は世界基準に移行し始めています。**

ケージフリーからフリーケージへ。過激な育種改変からゆっくり成長する品種へ。体が大きくなって立つこともできなくなると餌が食べられなくなって死んでしまい



ます。また、屠殺時に事前の意識喪失をしないのは日本だけです。他国は電気水槽で感電させ意識を喪失させたりガススタニングと言ってガスで気を失わせ痛みを感じないようにしたりして屠殺する方法へ移行しています。その方が作業する人にも心理的な負担が軽減されるからです。

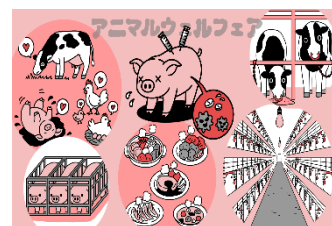
また、豚は、日本では「妊娠ストール」と言って鉄の棒で囲われ身動きが全くできない状況で拘束され子供を産みます。4年間も。豚は非常に知能が高く感情が豊かな生きものです。生産性が上がるためという理由でこのような飼育がされています。これも消費者の力で変えられます。こんな育ちをした肉を食べたくありませんよね。アジアの国々では多くの生産者が「ストールフリー」へと舵を切っています。それには私たちも肉の消費量を減らし、品質の良いものを多少高くても食べようという意識が必要と言います。

勿論養殖魚も同じです。ASC認証マークで育てられた魚を広めることが必要です。**エビの養殖も、今は眼柄を切除しています。ここからホルモンが出るので取ることで蜜養殖できるからです。**

動物の健康を考えることは**免疫を高め病気になりにくく薬に頼らずコストを下げます。そこで働く人も労働改善になり、持続可能な畜産へとつながると提言します。**生協は消費者の意識を変えるためこのような学習会をしています。人間社会が豊かで平和になるためにも動物も健康で平和に暮らすことが大事です。感情豊かな生きものにも生きる権利があると改めて認識しました。



最後ケージ飼いですっかり羽が取れボロボロのニトリが救出され、自然な状態で育っていく様子がビデオで紹介されました。2か月で羽が綺麗に生え変わり大きく健康になりました。子どもを産み育て幸せに暮らしていました。こんな姿になっても生きる力は備わっています。そのことを知りなぜかホッとする思いでした。私たちも現実を知り、食べ物への関心を深めることが、アニマルウェルフェアに繋がっていくと思います。YouTube「アニマルライツ・岡田千尋」で検索して現実を見て考えていただけたらと思います。



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。